

	小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「關係論」的纏め
八章	①天下(物:場 C')②人間(物:場 C')③心の世界(物:場 C')⇒からの關係:①と②とを③に「④移した」(D1の至大化)⇒「⑤眼に見える(形而下の)下克上劇(④的對立概念F)⇒E:⑤から「⑥眼に見えぬ(形而上の)克己劇(物:場 C')を創り上げた」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒藤樹(△枠):①への適應正常。
九章	①仁齋の學問(物:場 C')②藤樹(物:場 C')⇒からの關係:②が「③:心法と呼びたかつたものが①の根幹をなしてゐる」(D1の至大化)⇒しかし②がそのまま信じた「④:四書[朱熹の編纂]・大學[朱熹の編纂(禮記の大學篇)]」(③的對立概念F)⇒E:④に「⑤:原典批判や『大學、孔子之遺書に非らざるの辯』の劃期的研究も現れるに至つた」(Eの至大化)(④への距離獲得:Eの至大化)⇒仁齋(△枠):②への適應正常。
十章	①世(C'場)②言(物:場 C')③種(物:場 C')⇒からの關係:①は②を「④:『載せて以て遷る』といふ考への生れた③は」(D1の至大化)⇒「⑤:すべての言葉」(④的概念F)⇒E:⑤は「『碑文的性質』を藏して、獨力で生きてゐる一大組織と言ふ理由から」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒徂徠(△枠):①への適應正常。
十一章	

